

# 聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

## 第6章 預言者における祈り⑧



### ダニエル



ダニエルは祈りの人でした。祈ることが獅子の穴に入れられることを意味するようなときでも、祈りに対する固い決心は揺らぐことはありませんでした。また、知恵が与えられること、ネブカデネザルとベルシャツアルの夢の解釈が与えられることについても、神に信頼をしていました。支配者たちの前でも権威と確信を持って話すことは、長い時間をただ祈りの場で過ごすことによつてのみ可能なのです。

夢の解釈の最初の例においては、ダニエルには解釈を語るだけでなく、夢そのものを語ることも求められました。バビロンの王宮にいたヘブライ人の賢人たち四人は祈りに導かれました。ネブカデネザルの夢を解釈できなければ家は滅ぼされ体は八つ裂きにされるという恐ろしい現実に直面し(ダニエル 2:5,12-13を参照)、ダニエル、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴも切に祈りました(2:18,1:7を参照)。彼らの祈りの実際の言葉は記されていませんが、その願いの内容は明らかです。

それから、ダニエルは自分の家に帰り、彼の同僚のハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤにこのことを知らせた。彼らはこの秘密について、天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚が他のバビロンの知者たちとともに滅ぼされることのないようにと願った。(ダニエル書 2:17-18)

極度の状況には、神よりも人間に聞かせるための余計な表現を消し去り、祈りを本質的なものへと精錬する力があります。さらに、重荷は互いに共有することで軽くなります。力を一つにすることで、さらに強い力が生まれます。一致した祈りにはすさまじい力があるのです。特定の必要に対して一致して祈ることは、結果を生み出

します。初代教会が一致して祈ったとき、祈りの場は揺り動かされました(使徒 4:31 参照)。

ダニエルと仲間たちは祈りました。しかし、当時の悲惨な状況を考えると、神の答えが与えられたからといって、荒々しいバビロンの王に対してまことの神が劇的な形で明らかにされるようなことを彼らが想像していたなどということは、あまり考えられません。しかしながらダニエルは、そもそもネブカデネザルに夢をお与えになったのは神だということを知っていました。それゆえ、彼は「天に秘密をあらわすひとりの神がおられ」(ダニエル 2:28)るということを、自信を持って王に宣言することができました。私たちも同じです。極度の状況に直面していてもいなくても、神から与えられた役割を果たしていくなら、目に見える状況をはるかに超えて届いていくものなのだということを思い起こすべきなのです。

ダニエルは、ネブカデネザルの他の夢も解釈し、壁に書かれたものについて説明し、他の役人たちとは迷うこと、彼らに優ることを示したことで、まさに神の人であることを証明することとなりました。その結果、「王は、彼を任命して全国を治めさせようと思った」(6:3)と記されています。嫉妬に駆られた役人たちは、彼を追放すべく罾を仕掛けなければなりませんでしたが、「忠実で、彼には何の怠慢も欠点も見つけられなかった」(4節)ために、政務上の事柄について訴追の根拠を見つけることはできませんでした。しかし、ダニエルが祈りの人であることを知り、ついには王に、三十日間は誰も王以外の存在に祈ってはならないという勅令に署名をさせました。

「ダニエルは、その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。----彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。----**彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた**」(ダニエル 6:10)。ダニエルについて書かれた言葉の中で、この節の中に書かれている言葉ほど優れたものはありません。「いつものように」という言葉です。

優れた人物には優れた習慣があります。優れた習慣が優れた人物を作るのです。神の子どもである一人ひとりにとって、**神との交わり**は、何よりも大切な習慣であるべきです。血に飢えた悪しき迫害者たちに直面しても揺るがされることのないダニエルの礼拝の姿は、長年にわたり実践されてきていた祈りの習慣からあふれ出るものでした。この習慣こそが、彼の魂を筋金入りのものとしていたのです。彼はこの習慣のゆえに、命の危険にさらされた時も、単純に跨踏なくその習慣を守っていたのです。祈っている人の強さは、その人が周囲を取り囲まれている時にこそ、最も顕著なものとして現れるのです。

9章を見るとダニエルは、捕囚のイスラエルが奴隷としての70年の後に回復されると語るエレミヤの預言について瞑想した後、彼らのためにとりなしの祈りをしています。「顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた」(3節)と記されているように、ダニエルはこの告白の祈りを始めるに際し、「顔を神である主に向けて」祈っています。彼は、**神との関係を正しく保つことに対して完全な献身を示す**とともに、祈りが向けられているお方に絶対的な信仰を抱いていました。これは形式的な祈りではありませんでした。これは、請願、すなわち、切なる願いが特徴となっています。荒布と灰は、自己を完全に無にしていることを表しているのです。

ああ、私の主、大いなる恐るべき神。あなたを愛し、あなたの命令を守る者には、契約を守り、恵みを下さる方。私たちは罪を犯し、不義をなし、悪を行い、あなたにそむき、あなたの命令と定めとを離れました。私たちはまた、あなたのしもべである預言者たちが御名によって、私たちの王たち、首長たち、先祖たち、および一般の人すべてに語ったことばに、聞き従いませんでした。

主よ。正義はあなたのものですが、… 不面目は、あなたに罪を犯した私たちと私たちの王たち、首

長たち、および先祖たちのものです。あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。これは私たちが神にそむいたからです。私たちは、… 神がそのしもべである預言者たちによって私たちに下さった律法に従って歩みませんでした。

このわざわいはすべて、… 私たちの上に下りましたが、私たちは、不義から立ち返り、あなたの真理を悟れるよう、私たちの神、主に、お願いもしませんでした。…

主よ。あなたのすべての正義のみわざによって、どうか御怒りと憤りを、… おさめてください。…

私の神よ。耳を傾けて聞いてください。目を開いて私たちの荒れすさんださまと、あなたの御名がつけられている町をご覧ください。私たちが御前に伏して願いをささげるのは、私たちの正しい行いによるのではなく、あなたの大きいあわれみによるのです。主よ。聞いてください。主よ。お赦しください。主よ。心に留めて行ってください。私の神よ。あなたご自身のために遅らせないでください。あなたの町と民とには、あなたの名がつけられているからです。(ダニエル書 9:4-10,13,16,18-19)

ダニエルは、神の裁きの座の御前で国を擁護する弁護士でした。彼は、信仰の復興と回復を切に願っています。そして、その弁論の根拠は真正な悔い改めでした。彼は、支配者たち、王たち、祭司たち、士師たちの罪を、自らの罪とみなしていました。彼の祈りは、私たちの国々を含め、今日の多くの国々の惨状を認知する人々全員にとって、一つの型となってしかるべきでしょう。祈りの戦士たちは、国の事柄に対して、有名無実の指導者たちより大きな影響力を持つことができるのです。ひざまずいて祈る人々は、王座に座る王よりも大きな力を持っています。ダニエルが祈ったように祈る人々は、いと高き方の謁見所に近づくのです。そして、ダニエルのように、彼らもまた、神のみこころの宣言を拝聴するのです。

ダニエルはとても熱心な言葉で祈りました。なぜなら、彼はイスラエルに対する神の目的を知っていたからです。神のみこころを知っているからといって、祈りが不要となるわけではありません。むしろ、祈りはますます重要で効果的なものとなるのです。というのも、信仰を持って祈るということは常に、応答をもたらすものとなるからです。祈りの中でダニエルは、神のご性格と属性を思い起こしつつ、目をしっかりと神に向けていました。そのように祈ることで、その心にはさらに大きな信仰が沸き起こってきたのです。

ダニエル書は、終わりの世に対するダニエルの幻で幕を閉じます。世界は、少しでも未来をのぞき見ようとして、占星術や占い師、まじないをはじめ、あらゆる種類のオカルト的行為に向かっています。しかし、神が私たちに知って欲しいと願っておられることは、みことばの中にこそあり、私たちは決して、これから何が起こるかを知らうとして他のものに頼ってはならないのです。「私はこれを聞いたが、悟ることができなかった。そこで、私は尋ねた。『わが主よ。この終わりは、どうなるのでしょうか』」(ダニエル 12:8)。

ダニエルの祈りは、預言がどのような順序で成就していくのかを見きわめようと、それらの意味に思いを巡らす人々、あるいはすっかり混乱し切っている人々にとって、手引きとなります。自分は「悟ることができなかった」と理解し、ダニエルは、終わりのことについて初めからご存じの方のもとに出て行きました。未来を知っておられる方に祈るというのは、終わりの時について推測し、誤った結論にたどり着くよりも、どれほど遥かに優れていることでしょうか。

理解を求めてのダニエルの祈りは答えられました。求めていた情報の全てをいただいたわけではありませんが、魂に安らぎが与えられる答えをいただきました。「ダニエルよ。行け。このことばは、終わりの時まで、秘められ、封じられているからだ」(ダニエル 12:9)。私たちもまた、未来については、神のみにお尋ねするときに平安を期待することができるのです。

## ? 質問

- 1 ダニエルはどのような点で「祈りの人」でしたか？ いつでも権威と確信を持って話すためにはどんなことが必要ですか？
- 2 極度の状況で、重荷を互いに共有することはどんな結果を生み出しますか？あなたにもダニエルのように困難なときにいっしょに祈ってくれる人がいますか？ 誰かのためにいっしょに祈ってあげたことがありますか？
- 3 ダニエルは優れた習慣を身につけていました。それはどんな習慣でしたか？その習慣の結果、ダニエルはどんな態度を保つことができましたか？ あなたがダニエルと同じ習慣を身につけるためにはどうしたらよいと思いますか？
- 4 ダニエルは自分の国に信仰の復興と回復が起こるように切に願っていました。その際、ダニエルはどんな祈りをしていますか？あなた自身はダニエルの祈りのどんなところを模範として祈りたいと思いますか？
- 5 ダニエルは終わりの世に関してどんな祈りをしていますか？  
あなた自身の将来とこの世界の終末について関心と不安を感じる時、どんな祈りをしたらよいと思いますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？ どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。私の祈りがどんな危機においても力となるように、優れた習慣を身につけることができますように。ひとりで祈ることの大切さと同時に、互いに重荷を分かち合って祈る恵みを教えて下さい。未来をおさめて下さるあなたに信頼できますように。